



2001/10/1 発行

第4巻第4号(通巻16号)

目次:

特集

趣味について 2

エッセイ 4

学生団体・サークルのお知らせ 7

UA神奈川学習センター あきだより



放送大学神奈川学習センター
〒 232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1
TEL:045-710-1910
FAX:045-710-1914
<http://u-air.net/kanagawa/>
E-Mail:social@u-air.ac.jp

[イラスト:坂戸五葉]

特集： 趣味について



私の趣味

小山 佐枝子

星に魅せられて30年余り、天文学をきちんと勉強したくて放送大学に第一期生として入学、5年かかって全科履修しました。

望遠鏡を持って観測に行くために自動車免許を取得し、星空写真、星空観測、流星観測を行ってきました。さらに、アメリカのキットピーク天文台の見学を小尾信禰先生と一緒にしたり、タイへ皆既日食を観に行ったり、ハワイ島のスパル望遠鏡を見に行ったりと、専業主婦の趣味としてはかなり行動的な日々を過ごしています。そして今年2月には、待望のオーロラ観測にアラスカへ行ってきました。5夜の内3夜は見事なオーロラを観測しました。午後10時頃から午前4時頃まで、いつ出るかわからないオーロラをマイナス30（現地ではかなり暖冬）の外で一晩中観測するのですから、体中にホカロンを貼り、かなり厚着をして防寒服（帽子、靴、マフラー、マスク等を）に身を包んで待つのですから大変です。でもオーロラを見たいという、わくわくドキドキする気持ちの方が勝って寒さは感じませんでした。オーロラは、太陽から放射された太陽風が地球の磁場に捕捉され地磁気の南北両極に引き込まれるとき、秒速1万kmもの速度で大気上層部の窒素や酸素などの希薄ガス粒子と衝突し、そのとき起こる発光現象がオーロラとなるのです。地上で見ている私達には、この発光現象がカーテンがゆらゆら揺れているように見えたり、頭上から天使が降りてくるように見えたり（私にはそう見えました）します。白い薄雲が出たと、思ったらそれが全天に広がり、緑や赤、ピンクに色を変え東から西へ、北から南へオーロラは自由自在に全天で乱舞してくれます。それは見事な天体ショーです。いっぺんでオーロラ病にかかった私は、来年もまた極寒地アラスカへ行く予定です。

星に魅せられ、オーロラに魅せられたという、単なる主婦の趣味としては一生の勉強となる趣味を持つことができました。

音楽フリーク

佐々木 健充

私の趣味は音楽とコーヒーとたばこです。音楽の趣味は、昔横浜の新山下にあった「バンドホテル」の経営していたライブハウス「シェルガーデン」に私も出演していたことに始まります。ところがある日突然（1999年5月）、ホテルが競売でせり落とされてホテルごと閉鎖されてしまいました。音楽フリークであった私には、大変ショックな出来事でした。

ライブハウスがあったころは、仕事が終わったら直行し、経営者のサイトウカツマサ氏とサイトウサナエ氏とそこに毎晩集まってくる出演者たちとお互いの演奏を聴きあったりホテルの喫茶店兼ライブハウス事務所で朝まで語り合ったり、「ジョイポリス」（遊技場）へ遊びに行ったりして、とても楽しく過ごしました。

あるときなどは、行ってみると、ドラムスのF氏と彼女がホテルの庭でラジコンの車を走らせて遊んだりして（彼はいつもVANにラジコンカーを搭載していたのです）、ノンアルコールでも、こんなに楽しく過ごせることを実感しました。

しかし、演奏に関しては批評はかなり厳しくて、ぼくは（ピアノとギターを演奏していた）100点中5点だったり、1点だったりして（仕事との兼ね合いで）自分の力不足をいつも感じていました。それから、経営者のサイトウ氏はとてもマナーというものを大切にされていて、ぼくも徹底的に叩き込まれました。会話のマナーからホテルの使い方まで、いろいろと勉強になりました。

バンドホテルの閉鎖後は、私自身も失業してしまい、縁あって放送大学の学生になりました。放送大学では、本当は音楽の勉強をしたいのですが、今は渡邊二郎教授の哲学の授業が面白くて夢中で勉強しています。

いつの日にか、また「シェルガーデン」で演奏したいです。

放送大学と忍者

越川 敏子

このタイトルで「？」と首を傾げる人も多いでしょう。実は私の趣味の一つが写真で、どこへ出掛けるにもカメラを持っていないと不安になる人間です。7月末に三重県を旅行したとき、たまたまオーストラリアからのお友達と一緒にだったので、今まで馬鹿馬鹿しいと思って入ったことのなかった「伊賀忍者屋敷」を見学しました。以前テレビ・ドラマで使われたのでご存じの方もいるかもしれませんが、上野市の経営で、忍者屋敷の中で実演して見せる「くのー」(女忍者)は市の女子職員だそうです。その資料館でびっくりして、早速パチリとやったのがこの写真です。写真が印刷されるかどうか分かりませんのでご説明しますと、「伊賀忍者博物館マスコットキャラクター全国コンペ」大賞作品の子供忍者のポスターの下に、「放送大学学生募集」のパンフレットが置いてあり、それがまるで忍者の学校の学生募集のような、なんとはいえない取合わせでした。

テレビか雑誌の記事が忘れましたが、写真を写す効用として、まわりを良く見ることによって脳の働きが活発になるとのことです。自分では気がつきませんが、きっとキョロキョロして歩いているのでしょう。最近のカメラはすごく機能が良くなっていますから、シャッターを押しさえすれば大抵きれいに写ります。「何を写すか」が勝負ですから、いつもアンテナを敏感にしておく必要があります。この写真は放送大学に関係のない人には面白くもなんともないでしょうし、作品としてお見せできるようなものではありませんが、「こんなところにこんなものが」と気がついたのも、カメラのお蔭かと思ってお知らせしました。

編集部注:上記のポスターの写真は、インターネット版に掲載いたします。

ケーキの向こうは どんな顔？

遠藤 嗣子

私の本格的なケーキ作りは、20数年前のある1個のケーキとの出会いから始まった。近所に、テレビでもおなじみの先生が主催されているお菓子教室に通っていた方がいた。クリスマスも間近の頃、彼女は私にその教室で作った『ブッシュ・ド・ノエル』と言うケーキを見せてくれた。「わあ、可愛い!私も作りたいな。私にも作れるかな?きっと作れる!？」そんな単純な発想が、私をケーキ作りにのめり込ませることになったのである。しかし、そのときはまだ、その後に『ケーキ』の山を築くことになるとは夢にも思っていなかった。

お菓子教室へ通っていれば、それなりにもっと早く作れるようになっていたのかもしれない。しかし、子供がまだ幼かったことや、私自身の健康上の都合など、お菓子教室へ通える状況にはなかったもので、とりあえず本を先生に独学でケーキ作りを始めることにした。ある日、書店で一冊のお菓子の本を購入した。写真入りで解説してあるその本はとても簡単そうに思えた。数日後に焼いた記念すべき最初の1個。しかしそれは、大きく膨らんだ私の期待をもの見事に潰してしまった。『スポンジ(デコレーションケーキの土台)生地』は膨らまなかったのである。「何故?本の通りにやったのに・・・。」それからもなかなか本のように出来なかった。焼き上がる度にいろいろな人達に試食をお願いしては、感想を頂いた。どのくらいの数の『スポンジ』を焼いた頃だろう。

ようやくイメージに近いものが出来上がった。

次に、バターがたっぷり入った『マドレーヌ』に挑戦することにした。その頃には、我が家の書棚にはお菓子の本が増えていた。その中に走り書きの私のレシピノートも申し訳なさそうに並んでいた。暇さえあれば息子とそれらを眺めていた。そこには今まで気づけなかった興味深いことがたくさん書いてあった。『マドレーヌ』の材料は、どの本もほぼ同じだが、分量は微妙に異なっていた。そして更に3通りの作り方があることがわかった。それぞれの作り方を試してみたが、やはりなかなか思うようにはいかない。そこで、分量を同じにして作り方だけを変えてみることにした。驚いたことに、分量が同じ材料を使って焼いたはずなのに出来上がった『マドレーヌ』は3通りの味がした。卵、小麦粉、砂糖とバターの織りなす『マドレーヌ』の奥の深さに驚きと感動を覚えた。

ある日、朝からマドレーヌ作りを始めた。楽しくて面白くて時間を忘れるほど夢中になっていた。ふと気がつくと、テーブルの上には100個近いマドレーヌであふれていた。マドレーヌの甘ったるい薫りに心地よい疲れを感じながらも、とても幸せな気分だった。お菓子は人の心を幸せにしてくれるものかもしれない。漠然とそう感じた。『スポンジ』の時と同様、いろいろな人達に3種類の試食をお願いし、感想と好みをお聞きした。三者三様、それぞれ好み異なることがわかった。こうして甘い誉めことばと辛口の感想を糧に、ますますケーキの魅力に取り憑かれていったのである。

いつの頃からか、お返しやお礼、お土産には手作りのケーキを差し上げることにした。別に自分がケーキを作れることを自慢しようと思ったからではない。上手く言えないのだが、お菓子作りを

エッセイ

ある放大生の夢

八木 秀夫

始めて間もない頃、悪戦苦闘していたときに感じた、夕食のおかずが美味しくできたときの喜びとは違った満足感や幸せな気分を相手に伝えたい、贈りたいという気持ちからだった。しかし、誰もがその気持ちを素直に受け取ってくれるわけではなかった。それは有頂天になっていた私への警鐘だったのだろうか。そのことを感じてからは、お菓子作りを始めるとき必ず差し上げる相手の顔を思い浮かべることにしている。何を作ろうかな、迷惑かな、喜んでもらえるかな、美味しいと言ってくれるかな……。そして思い浮かぶ顔はいつも笑顔ばかり。まさに至福の時間である。

ある日、思いがけない感想を頂いた。「ありがとう、いつもながらとても美味しかった。主人が、『この人のケーキには愛があるね。』と言ったのよ。本当に美味しかったのね。」それまでも何度か差し上げたことはあったのだが、まさかこのようなことばを頂けるとは夢にも思わなかった。たかが手作り、されど手作り。どのように感じるかは贈る側、贈られる側の考え方の問題なのかもしれない。お菓子に限ったことではないが……。いろいろな人達の甘言苦言に支えられながら私のお菓子作りは続いていくことだろう。

これからも『ケーキの向こうはどんな顔?』と想像をたくましくしながら、お菓子づくりを楽しみたいと思っている。さあ、今度は誰の顔?



単位認定試験が明日に迫った。

「そろそろ勉強しなくては」

つぶやきながら、風変わりな機械にビデオカセットをセットし、ヘッドホンに似たものを側頭部にあてた。

以前は放送を受信したり、ビデオカセットから再生して授業を視聴し、頭に記憶していた。

今は違う。ビデオカセットに記録された授業内容を機械が解読し、直接脳細胞に記録してくれる。風変わりな機械はそのための装置で、側頭部に当てたのは記録用の電極である。これを使えば、45分の授業を一分足らずで記憶できる。あまりに速いので、その間自分では何も分からないが、記憶された内容は完璧だ。

この画期的な方法が発明されてから、勉強はたいへん楽になった。だが、いいことばかりではない。全科目、評価A+で合格したのに何の感動も無い。精神的な充実感は得られなかった。

やはり、以前のように自分の力で覚えよう、そう考えたこともある。しかし、一度味をしめてしまった今、そんなことを本当にやる気にはなれない。今学期も機械に頼ってしまった。翌日、時間ギリギリに試験会場に入った。成績は百点に決まっている。鼻歌混じりで第一問目に取りかかった。

ところが、どうしたというのだ。全く分からない。しかも、この大事なときに、頭の中には日本百名山のひとつ四阿山(あずまやさん)のことが、次々に、手にとるように浮かんでくる。何故だ。登ったこともない山なのに。そういえば先日、この山のことをテレビで放送していた。百名山には興味を持っていたので、録画した……。

「あっ！」

昨日、勉強のときセットしたのは、このカセットだったんだ! 心臓の鼓動が急に高まり、次の瞬間、一気に目覚め現実の世界に放り出された。顔をあげると、そこにはいつもの、普通のビデオデッキとテレビがあった。画面に、「次回は……」というメッセージが、出て、そして消えた。

「ああ、また寝てしまった」

眠い目をこすりながら、巻き戻しスイッチを、押した。

新しい分野に進むための一つの手立て

楨 満信

わたしは今選科生で一学期に一科目しか修めずゆったりと勉強していますが、「産業と技術」および「生活と福祉」の全科生であったころは每学期6～7科目ほど修めておりました。わたしの場合、「産業と技術」では産業論を、「生活と福祉」では社会福祉をそれぞれ主題として学ぶという一応の目的を持っていましたので、どの科目を選ぶかということに迷うということはそれほどありませんでした。むしろ問題は、せっかくさまざまな科目が用意されている本学において、これまであまり興味のなかった分野にいかに入っていくかという視野を広げるかということでした。ここではわたしがとった態度をご紹介します。皆様の科目選びに少しでも資することができればと思います。

先にも書きましたように、わたしは每学期、六つから七つほどの科目を修めておりました。そこで決めていたのは、2科目だけは自分の興味と無関係に、ある規則にのっとって選ぶということでした。その規則とは次のようなものです。本学では、4年間放送された科目は閉講となります。中には6年ぐらい放送されるものもありますが、基本的には4年間で終わります。そこで科目登録のとき、次学期でもう4年目(以降)を迎えることになる科目群をリスト・アップし、その中から、できるだけこれまで興味を持たなかったような内容のものを「授業科目案内」をにらみながら二つ選んで、修めることにするのです。

さて、こうしたことによってどういう効果があるのでしょうか。まず、これまであまり知らなかった分野への興味が半強制的に開かれます。たとえ嫌いな分野であっても、一つや二つなら頑張ってみようという気にもなりやすいことでしょう。もし通れば、こういうことも勉強したという自信になります。しかもそれらの科目はまもなく閉講になるわけですから、再試験でも駄目だと印刷教材も15回聴いたテープも無駄になってしまうということで、普通以上にやる気がわいてく

ることが期待できます。特に、冬学期に登録した科目を落として次年度の夏学期に再試験を受けるという形になった場合、もうその夏学期には放送もやっていませんし学習センターにもテープがその後なくなりますから、「そうはなりたくない！」と必死で勉強することが期待できるというわけです。こうして必死になることを毎学期繰り返しているうちに、学んだ分野の幅はきっと広がってゆくことでしょう。

もちろん、試験に後がない反面、(開講されたばかりの科目と違って)すでに修めた人からの情報が入ってきやすいという利点もあります。また、先生のほうも、それまでの試験結果の分散や平均点を見て、より学習成果が適切に反映されそうな、こなれた試験問題をこしらえてくれるのではないかとも思うのです。

以上が、学問的視野を広げるための一つの提案です。いかがでしょうか。皆様が每学期お修めになる科目のうち、一つや二つはこうした基準で選んでみるのもおもしろいかもかもしれませんよ。



車中雑感

芝崎 芳和

明石市の花火大会の際の事故のニュースを見て、日暮里駅の惨事を思い出した年輩の方も少なくないと思う。年月は思い出せないが、戦後間もない帰宅時の混雑で、駅の跨線橋の突き当たりの壁が破壊して、乗り換えの人々が落下した事故である。あの頃、桜木町事件(昭和26年)や三河島事故(昭和37年)、鶴見事故(昭和38年)などの大きな電車事故が次々とあって、蔭に隠れてか、市販の事件記録には見当たらないが、その時は大きなショックを受けた記憶が残っている。

当時の鉄道交通関係は混沌としていて、若い人たちに戦後の電車や汽車の混み合いを話しても、分かって貰えなくなってしまった。食料買い出しに汽車の窓から出入りしたり、通勤電車で、座席の上まで立ったりというのは当時は当たり前であって、到底今の人には実感が湧かないことでしょう。

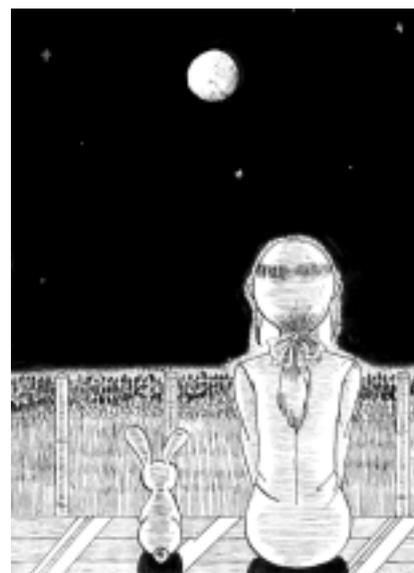
そんな混乱の中でも、体の不自由な方や年寄りに席を譲るといふ、戦前からの慣習といふかマナーは無くなってはいなかったと思う。

その後、少し落ち着いた昭和48年に、中央線電車で「シルバーシート」が出来、以来「プライオリティ」とか色々名前が変わったが、いわゆる弱者のための席が設けられるようになった。これらの効用について種種の論議はあるが、この席で携帯電話で遊んでいる女子高生群や、まんが本を読んでいる若者、居眠りを装っている者、我先にとこれを占領しようとするオバタリアンは頂けない。これも首都圏でいえば、中央線や山の手線などではよく心得られているように見えるが、地方になるほど駄目なのは何故でしょう。

近頃、電車に乗るとき何故か「弱者席」の無い乗車口を選んでいる気がする。一つにはこんな風景を見たくない気持ちからか、一方には、もし席を譲られたら困る

という年齢になったからか。ちなみに、一般論として何歳から席を譲ってもらえるかを尋ねて見たが、諸外国にも決まりはないようで、フランスだけ76歳以上と言われていたか。

話が前に戻って、「弱者席」などまだない頃、車中で読んだ作家加藤武雄(1888~1956)のエッセイの中で、正確には憶えていないが、「席を譲るといふ行為には、かなり低俗な好奇心に基づくことに気がつくことが多い」とあって、意味深な言葉だなと感心したことがある。多分、周囲の人がどう思うか、連れの人かがどう評価するかとの下心を言っているのではないかと、今でも同感するのは、私だけでしょうか。いわゆる「同情論」とか「立場論」とか「近頃の若者は論議」に合わせて考えると、興味の湧く課題である。はちと大げさかな。



学生団体・サークルの お知らせ

神奈川放友会

新入学の皆さん、神奈川放友会で
す。入学おめでとう御座います。
神奈川放友会は神奈川学習セン
ター 所属の学生団体で、会員相互
の交流の輪を拡げて親睦を図り、学
習を援助するサークル活動を行って
います。

- ・行楽と研修を兼ねた旅行
- ・一泊研修旅行（大学本部・図書館
等）
- ・旅にいこう会（行楽地・名所旧跡
等）
- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表
- ・パソコン勉強会

放送大学での学生生活をより一層
充実させ交流の輪を拡げたい方の入
会をお待ちしています。

§ 行事予定（10月～12月）

10月上旬 入会勧誘/歓迎会

10月21日 旅に行こう会(行先未定)

11月18日 例会(情報交換会)

12月16日 忘年会

パソコン勉強会は別途スケジュールで実
施しています。

照会/入会申込先

〒235-0023

横浜市磯子区森1-15-1 810号

吉田 昭二

Tel/Fax : 045-752-2783

放友会活動報告(その2)

一泊研修旅行記

1学期の成績通知書も届き、2学
期の学習準備を進めている、9月1
5日～16日に神奈川放友会の恒例
行事となっている、一泊研修旅行が
実施されました。

当日の参加者は、吉田会長はじめ
16名（女性5名・男性11名）で、
JR横浜駅の東海道線上りホームへ
9時に集合して最初の目的地である

「葛西臨海公園」に向け出発となり
ました。団体行動で逸れると困ると
の幹事の心配りによる、お揃いのリ
ボンを袖に付け、神奈川放友会のペ
ナントを目印に移動すること1時
間余りで「葛西臨海公園」に到着、
13:30まで自由行動となりました。

「葛西臨海公園水族園」の通常時の
入園料は700円（65歳以上は無
料）ですが、当日は敬老の日であり
それから1週間は60歳以上の人
は一人の付き添いを含め無料とい
うことでした。メンバーのほとんど
がペアになり無料で入園すること
ができ60歳以上の先輩に感謝の
気持ちでいっぱいでした。

昼食を含めた自由行動も終わり、
電車で「千葉県立美術館」に向け移
動となりました。電車に乗るとすぐ
大雨となり今後の行程が心配でし
たが、しかし下車駅である「千葉み
なと」に到着した途端に雨も上りま
した。これも日頃の行いが良いメン
バーばかり参加している賜物だな
と思い安心しました。

「千葉県立美術館」の見学も終了
し、いよいよ宿泊場所のセミナーハ
ウスに到着しました。

セミナーハウスは一般のビジネ
スホテルと同じような施設であり
ながら千円ちょっとで宿泊できる
ことにはびっくりさせられ、附属図
書館の蔵書の豊富さに驚き、このよ
うな放送大学の設備を活用すれば
もっと学習を深められるのではと
思った瞬間でした。

セミナーハウスでの研究発表お
よび交流は、深夜まで続き一日目は
無事終了となりました。早めに就寝
された方にはご迷惑をかけたかも
しれません。

二日目の予定は「江戸東京博物
館」の見学でした、ここでも「葛西
臨海公園水族園」と同様に常設展入
館料が無料となるサービスがあり
ました。（またもや諸先輩に感謝！）

私自身「江戸東京博物館」を見学
するのは2回目でしたが、たとえば
杉田玄白らが翻訳した「解体新書」
の展示コーナーでは、放送授業では

翻訳当時の状況を詳しく解説して
もらったなと思い、また「モースコ
レクション」の展示コーナーでは、
授業で聞いた「大森貝塚」を発見し
たあのモースさんかなと思ったり
して、前回きた時にはこんな見方を
しなかったなと思い、やはり放送大
学で学び、知識が豊富になると博物
館の見学も楽しくなるということ
を実感しました。

自然に親しみ、芸術を鑑賞し、歴
史を学び、会員の交流を深めた研修
旅行も無事全行程を終了すること
ができ、今回の企画・実行に当たり
下見も含めご尽力をいただいた、堀
口さん、芝崎さんに大変感謝をして
おります。ありがとうございました。

今後も「神奈川放友会」の各種イ
ベントを楽しみにしております。企
画等にも積極的に参加していきたい
と思っております。

（木下 義則 記）

人間学研究会

【例会予定】

（2001/10～2001/12）

10/13（土）「日本最古の紙幣」
大出さん（会員卒研報告会）日本
最古の紙幣山田はがきのなぞ、そ
の時代背景を考察します。

11/18（日）「信仰と旅と“遊
び”」高橋照一郎さん江戸文化研
究者の氏が、新しい江戸発見を報
告します。

12/09（日）公開特別講演「年金
改革論争」神奈川学習センター所
長 神代和俊先生。例会終了後、
忘年会の予定。

連絡先：高橋暢二044(355)3865

【歩きましょう予定】

（2001/10～2001/12）

10/20（土）～10/21（日）

「金峰山・瑞牆（みずがき）山
登山」

葦崎～瑞牆山荘～富士見平小屋

～瑞牆山～富士見平小屋（泊）
～金峰山～増富温泉郷
11/02（金）～11/04（日）

「第24回日本スリーデーマーチ」埼玉県東松山市で開催。5・10・20・30・50キロコースあり。宿泊を伴う申し込みは10/05（金）まで。申込みは、日本ウォーキング協会 101-8368 千代田区神田小川町3-20（Tel:03-3295-1002）まで。

12/01（土）～12/02（日）
「第5回 甲州街道を歩く」
穴山～富士見町（泊）～茅野～上諏訪～秋宮

12/15（土）or12/16（日）
「忘年会ハイキング 矢倉岳」
12/23（日）

「第9回 汽笛一声ウォーク」
連絡先：大出鍋蔵

0468(41)7937
鈴木万里子
0466(37)0191

放送大学同窓会

暑かった今年の夏も過ぎ、虫の音が聞こえてくるようになって凌ぎ易くなってきました。今年の学園祭（フェスタ・ヨコハマ）に、同窓会としてはじめて参加して楽しい1日を過ごすことができました。同窓会は、今年もいろいろと行事を計画しています。

【秋の江の島散策】

・日時：平成13年10月21日（日）
小雨決行、集合場所：江ノ電江ノ島駅改札口 11時
・費用：約3,500円、申込締切：平成13年19月18日（木）
・申込み先：TEL&FAX 0467-24-0160（出口仁美）

【体験発表】

・日時：平成13年11月11日（日）13時～16時
・場所：神奈川学習センター 第8講義室
・演題：1)「晩学で私が得たもの」佐藤美津留さん 2)「皆既日食で綴る太陽活動 周期」田澤誠一氏
・問合せ先：TEL&FAX 0467-24-

0160（出口仁美）

【映画鑑賞とお話し】

・日時：平成14年2月24日（日）13時～16時

・場所：神奈川学習センター 第8講義室

題名：「初恋のきた道」

解説：西浦久晏氏

・問合せ先：TEL&FAX 0467-24-0160（出口仁美）

皆さんお誘い合わせの上参加して楽しい1日を過ごしてください。（伊東 記）



UA神奈川学習センター あきだより編集部

発行者：神代和俊
編集者：五十嵐、遠藤、星、加藤、松本、皆川、吉田、浅野、坂井

・イラストは、坂戸五葉さんに描いていただきました。このたび、インターネットにギャラリーを設けましたのでご覧ください。

・このほか、ホームページでは掲示板で情報を募ったり、神奈川学習センターの教務情報を載せたメールマガジンを発行したりしております。

ホームページもご覧ください。
<http://u-air.net/kanagawa/>

次回、神奈川学習センター「ふゆ」だよりの特集テーマは、「新年に想うこと」です。学生の方々の原稿を募集いたします。1200字程度にまとめて12月上旬までに、E-Mailで、あるいはセンター窓口までお寄せください。

Nancy Class & うえるかむ

Nancy Classはオレゴン出身のアメリカ人女性による英会話クラスです。月2回の例会ではGATEWAYSのテキスト、フリートーキング、リズム、クイックリスpons等の練習を通して良いコミュニケーションのとり方を勉強しています。

例会 第2水曜 10:00～11:30
第4水曜 10:00～11:30

“うえるかむ”は海外学生交流サークルとして各学習センター有志で平成7年に発足、今年4月にはイギリスのOpen Universityを訪問したり9月は国立天文台を見学したりと活発に活動しています。“うえるかむ Kanagawa”も午前中はNancy Classで少し緊張した後、ラジオの英会話入門や文法、フリートーキング等自分達で工夫して楽しいサークル活動を目指しています。Nancy Class、“うえるかむ”どちらに参加してもかまいません。皆様もチョット覗いて見ませんか。

例会 第2水曜 13:00～15:00
第4水曜 13:00～15:00

*各学習センター合同行事は毎月1回程度（休日）開催

*連絡先

星 045-844-9647
野末 044-287-0270